

ウスイロコノマ採集の思い出

五十嵐 英 二

会誌8巻1号の高橋寿郎さんのコノマチョウの記事を誌んで、私にも思い出すことがあり、ここにそれを記しておこうと思います。

1971年6月20日、佐用郡上月町の上秋里あたりと思える所でウスイロコノマの夏型♂をひとつ採っています。当時は初めての久崎で、須磨区に住む日下部さんの車で案内してもらって行ったわけでした。朝から雨がパラパラしていましたがせっかくだからと出発し、上月駅が見えた頃には本気で降っていました。少し小降りになったことで、もう濡れてもかまわないと言う気持ちで車から降りて急いで竿をつなぎナラガシワを叩き廻りました。目的はヒロオビミドリでした。

しかし、なかなかゼフらしいものは姿を見せず、どうしても樹を見上げて長い竿を振るため、雨は目の中に入りナラガシワをめがけて振ったはずの6mも空を切って、そのまま地上へ思い切りよく私の身体ごと倒れたのでした。その倒れたネットをバラの一株に引っ掛けてしまい雨の降る中イライラしながら外しにかかったのですが半ば引き抜くような乱暴な方法でした。それに驚いたのかバラの近くから大きな黒いものが飛び出して、ほとんど私から1mと離れていない草の葉に止まったのでした。じいっとよく見つめると黒いものは茶色いチョウであり、その羽は波状模様の中に眼状紋がついていました。私は久崎まで来るとヒメウラナミジャノメもこんなに大きなものまでいるのかと思いました。兎に角オバケヒメウラナミは採るべきだと、バラのネットは破るように外して採れたのでした。雨はどんどん降り始めた頃でした。

ウスイロコノマとはっきりしたのは家に帰って図鑑を見てからでした。今でも久崎で、それも6月にウスイロを採ったことは変な感じがします。標本は古い個体でした。大阪自然史博物館へ持って行きました。

ついでの報告

日本産蝶類大図鑑 藤岡知夫著 のアオスジアゲハの解説で裏面の赤斑が黄色に変じた黄斑型があるが、ミカドアゲハのような黄斑型の確実な個体についてはっきりと記されていないのですが、私はその確実に黄斑型と言えるものを採ったことがあります。

西宮市戸崎町 1971年5月1日 ♀1頭

採った個体はほぼ完全なものでしたが、展翅板から外すときの事故があって傷めてしまいひどい修理品となったのでした。また採れると思って標本は大阪自然史博物館に持って行きました。その後全く採れません。